

豊中・サンマテオ  
都市提携ニュース



第 12 号  
昭和55年 3 月31日発行  
豊中・サンマテオ  
姉妹都市協会  
事務局 豊中市市長公室  
秘書課848-1121



サンマテオ市長来豊

# サンマテオ市長 ジェーン・ベーカー女史訪問！

豊中市の姉妹都市サンマテオ市長ジェーン・ベーカー女史が、11月28日公式訪問されました。美人でスマートな市長は、終始ベーカースマイルで私達に伝えてくれました。

市長の今回の訪問は、両市の国際親善の輪を一層広げただけでなく、サンマテオ市を訪問した多くの豊中市民にとっても、なつかしい対面となり、これからの交流にも大いに役立つものと思います。

サンマテオ市首長の来豊は、昭和38年10月都市提携調印時に来訪されたアルバート・J・ウイスナー市長に次いで二度目のことです。



市役所玄関で歓迎

## 〔主な日程〕

- 11月28日 11時55分 大阪空港到着  
13時30分 豊中市役所訪問  
16時30分 姉妹都市協会主催歓迎パーティー
- 11月29日 終 日 京都市内観光
- 11月30日 午前から 奈良市内観光  
18時30分 豊中市長招宴
- 12月1日 19時50分 大阪空港発帰国

11月28日から12月1日まで、豊中市内の川合省三氏宅に民宿され歓待を受けられました。またその間同氏夫人川合隆子さんと、豊中市長の

御息下村忠功氏に通訳をお願いしました。滞在中、京都、奈良などを観光され、晩秋の古都の風情を満喫されました。

当協会主催の歓迎パーティーや、豊中市長招宴もお陰で盛大にかつスムーズに進行し、友好の輪を一層広げることが出来たことは何よりもうれしいことでした。

12月1日、私達にさわやかな印象を残して、帰国の途につかれました。



豊中市長 招宴

ベーカー市長からお礼のお便りが届きました。

「豊中の人々はサンマテオに対して非常に温かい気持を持っています。私達がやっている友情とお世話に対し豊中の方々は大変評価してくれました。訪問中、私に示されたもてなしと温かい友情は圧倒的なものでした。

豊中の心は確かにサンマテオとともにあります」……と。



奈良 観光

・親善訪問団によるサンマテオ訪問



豊中・サンマテオ  
姉妹都市協会会長  
親善訪問団団長  
広石 幸八郎

今回のような公式訪問は、昭和46年以来2回目のことでした。

広石幸八郎豊中商工会議所会頭を団長とする36名で87才のおじいさんから3才の子供まで、そして海外旅行経験者から今回が初めてという方まで大変バラエティに富んだメンバーでした。

出発まで2度の事前説明会を持ち、パスポートの準備に始まって、部屋割り、荷物の整理、姉妹都市でのセレモニー等、周到な準備をして、いよいよ出発の日がきました。

大阪国際空港には下村市長をはじめ、多くの関係者の方々が来られ盛大な見送りをいただきました。

昭和54年11月17日、日航ボーイング747のジャンボ機でサンフランシスコへ向けて出発しました。所要時間は約10時間…。旅慣れた人は、さすが飛びたつとすぐ睡眠をとっているし、反面旅慣れしていない者に限って、2回の運ばれてくる食事を全部とり睡眠不足と運動不足から完全に疲れが出ているようでした。こうして出発してから8時間程経った頃アメリカ大陸が近づくにしたがって（現地の午前6時30分）朝焼け空があたり一面に広がり、しばらくするとまばゆいばかりの朝日が雲の間からこうこうと照り出し、やがて眼下に青々としたアメリカ大陸が雄大に展開されるのであります。こうして2時間、朝の8時30分ようやくサンフランシスコ空港に到着しました。

空港にはジム・中田、ジェイク大岩夫妻とお母さんそれにエルマー・アンダーソンたちが出迎えてくれました。そして親善訪問団のアメリカの旅がこれから始まるのです。



◀ツイン・ピークス  
双子丘と訳されるとおり、南北2つの頂上をもつこんもりした丘で、高さは海拔273m。サンフランシスコ市の中心地にある最高峰として、山頂からの眺望はすばらしい。特に夜景の美しさは、宝石箱という形容がぴったりするほどの絶景。

以下ご紹介をします。  
(日程)

月日(曜)	地名	現地時刻	交通機関	旅程・宿泊地
11月17日 (土)	大阪発 東京着 (成田)発	14:00 15:10 16:40	JL 154 JL 004	日付変更線通過後：サンフランシスコ市内観光(サンフランシスコ泊)
	サンフランシスコ着	08:30		
11月18日 (日)	サンフランシスコ発 ラスベガス着	16:25 17:30	RW 749	午前：サンマテオ市親善訪問 空路、ラスベガスへ(ラスベガス泊)
11月19日 (月)	ラスベガス発 ロサンゼルス着	17:00 17:50	RW 893	◦グランドキャニオンツアー 空路、ロサンゼルスへ(ロサンゼルス泊)
11月20日 (火)	ロサンゼルス ロサンゼルス			午前：ロサンゼルス半日観光 午後：自由行動(ロサンゼルス泊)
11月21日 (水)	ロサンゼルス発 ホノルル着	15:10 18:38	CO 975	◦ディズニールンド観光空路ホノルルへ(ホノルル泊)
11月22日 { 23	ホノルル			自由行動(ホノルル泊)
11月24日 (土)	ホノルル発	10:20	JL 077	空路、帰国の途へ
11月25日 (日)	(成田)大阪着	16:35		

▼ゴールデン・ゲート・ブリッジ

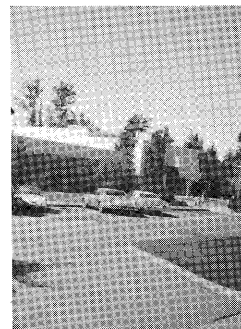


サンフランシスコから金門海峡をまたいで北のマリン郡Marinにかかる大吊橋。橋そのものの美しさもさることながら、橋の上から、またマリン郡側の見晴台Vista Pointから眺めるサンフランシスコのスカイラインが圧巻。とりわけ夕暮時の眺望がすばらしい。全長2,780m、海面からの高さは中心部で66m、総工費3,500万ドルで1937年に完成した。

いよいよ待望の姉妹都市訪問の日です。宿舎のセント・フランシスコホテルからバスでサンマテオ市へ30分、サンフランシスコの市内ほど街並みは賑やかではないが、しかし落ちつきのある住宅街で道中の広い道路、区画の行き届いた街並みは変わりません。

市役所には、日曜日であるにもかかわらず、ジョン・マーレ、ジョゼ・ヴィラボ、ヒュ・ウェイン、ドナ・リチャードソン、ハンス・ブルー、リチャード・ディロン、ジム・中田、大岩夫妻、大岩ハマエ、市の書記官等の方々が玄関で出迎えてくれました。そして議場に案内され、そこで公式訪問のあいさつをはじめ、一連のセレモニーのあと市内見学をしました。

▼サンマテオ市役所



セレモニーではお互いのあいさつのあと記念品の交換をはじめ、豊中・サンマテオ姉妹都市協会から訪問を記念してサ・市へ100ドルの寄附をしました。

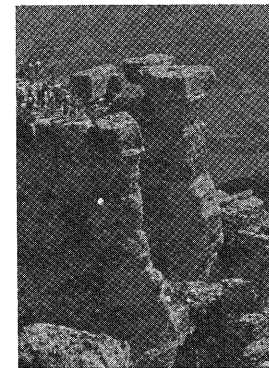
1. 市役所
2. 博物館
3. ベイ・ビュー、フェドラル銀行で市主催の昼食会
4. 図書館
5. 日本庭園

▼市街地



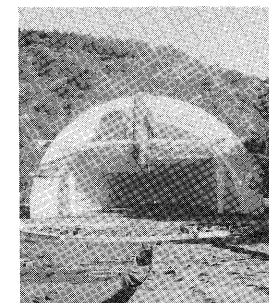
等の見学のあと、姉妹都市を離れて、ベイ、ブリッジ経由でサンフランシスコ湾を横断して対岸のオークランド空港から、次の目的地ラスベガスへ飛行機で発ちました。

◀グランドキャニオンは西部の誇り



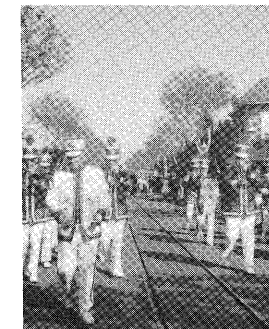
1,000万年にも及ぶ長い年月のうちに、アリゾナ州を流れるコロラド川の水は大地を徐々に掘りさげ、長さ350km、幅約6kmから29km、谷の深さ1,600mの大峡谷を造りあげました。以来、今日まで峡谷の壁は風雨に浸食され、川の流れに彫刻されてきたわけ。そして今もグランドキャニオンは絶えず拡張され変化し、一日たりとも全く同じではありません。

◀ハリウッド・ボール



ハリウッド丘陵の自然の地形を利用して造られた2万人を収容するマンモス野外劇場。7月・9月にかけてのシーズンには、ロスアンゼルス交響楽団の“星空の下のコンサート”や、バレエ、オペラ、ポピュラー音楽などが毎晩開催される。

◀“地球上でいちばんハッピーなところ！”これがディズニールンドのキャッチフレーズ



遊園地のご本家ともいうべきディズニールンドが誕生したのは1955年7月。大人も一緒に楽しめるユニークな遊園地を…というウォルト・ディズニーの夢が実現したものです。ディズニー映画の歴史も、アメリカ開拓の歴史も、アメリカ近代科学の発展も同時に楽しめるディズニールンドの入場者のうち、何と80%は大人です。

こうしてアメリカの旅は、姉妹都市サンマテオ関係者との交流をはじめ、西海岸、ハワイ等の見学をして9日間という長い日程を終えたわけですが、メンバーの中には来年も計画してほしいとの要望があいつぐほどで、今回のこの計画がいかにか成功裡であったか、お察しいただけると幸いです。又、何よりも嬉しいことは、参加者全員が無事に元気で帰国できたことです。今後こういった計画は姉妹都市との交流をより親密にする意味で大切ではないかと思えます。(事務局 記)



# 広がる 市民交流

ことばや国境の垣根をこえての相互訪問は、ますます親善の輪を深めています

## ▼10月5日～1月30日

### 嶋和彦君 サ・市訪問

アメリカの教育システム勉強のため4ヶ月間滞在。

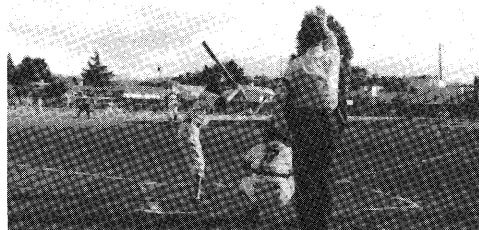


## 豊中→サンマテオ

### ▼7月23日～8月2日

#### 豊中少年野球チームのサ・市訪問

豊中市の少年野球20周年を記念して選抜チームがサ・市へ親善訪問、桑村団長をはじめとする大人11人と主将の赤井君ら選手20人はサ・市で5試合の親善野球とキャンプ、ホームステイ等をして交流を深めた。



### ◎7月22日

#### ロータリクラブの交換学生サ・市訪問

志保川さん、本田さん、西山さん、3女性が交換生として訪問。



### ◀8月7日 家庭婦人グループによるサ・市訪問

10人のメンバーは、中田氏、大都氏の出迎えを受け、日本庭園、市役所等を見学、親善交流をした。



### ▶11月18日 親善訪問団によるサ・市訪問

広石会長を団長とする親善訪問団36名が公式にサ・市を親善訪問した。日曜日にもかかわらず市役所の関係者・姉妹都市協会のメンバーの出迎えを受け、市内見学や歓迎パーティ等のもてなしを受けた。

## サンマテオ→豊中

### ◎7月18日 キャロライン・ジョーンズ嬢来豊

ベーカー市長のメッセージを携えて1ヶ月間の日本旅行をし途中、豊中市役所を表敬訪問。

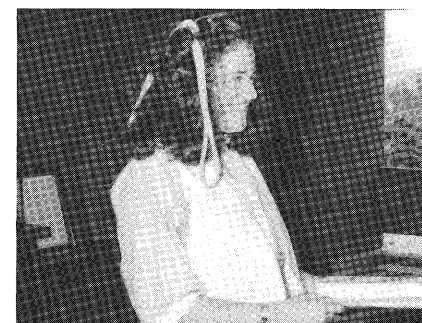
### ▼8月13日 ビル・モローさんが来豊

豊中ライオンズクラブの交換学生としてアメリカ青年が市役所を訪れ下村市長を表敬訪問した。この青年はCa.Visaria市に住み、この9月から南カリフォルニア大学に入学するが、この日豊中ライオンズクラブの尾谷さんや石川さんらと一諸に市役所を訪れた。モローさんは市長にバナナを市長は訪問記念として記念品と市のパンフレットをプレゼントした。



### ▼7月21日 ビクトリア・モーア嬢来豊

豊中の三ロータリークラブの交換学生として来豊、市長は「豊中へようこそ」と記念として記念品と市のパンフレットをプレゼントした。



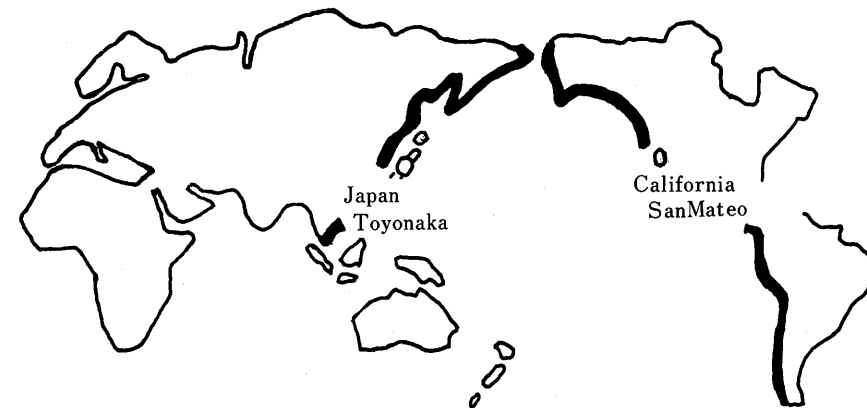
### ▼10月11日 ジム・中田氏来豊

毎年、豊中とサンマテオとの橋わたし役として来豊、今回は豊中野球チームの家庭に招かれ折よく秋祭りとも重なって豊中での一日をすごされた。



### ◀11月28日～12月1日

#### サンマテオ市長ジェーン・ベーカー女史来豊



## 第8回 高校英語弁論大会終る

### 井口さん(梅花)が優勝



熱弁をふるう高校生

豊中・サンマテオ姉妹都市協会主催の「高校英語弁論大会」が2月9日(土)午後2時から豊中市市民会館で開かれました。

新春恒例となっているこの大会は今回で第8回を数え、今年は豊中、池田、箕面、宝塚から計21名の高校生が参加、ロジャー・メイチン京都外大助教授ら5人の審査員を前に、自由テーマで5分間熱弁を競いました。

大会には応援の友人、先生、家族の方々がたくさん出席され、緊張のうちにもなごやかな雰囲気ですべて終了することができました。

応募者は定員の15名をこえる盛況で次のとおりでした。

	出 場 校	人 数
1	豊 中 高 校	2 名
2	豊 島 高 校	1
3	梅 花 高 校	4
4	池 田 高 校	1
5	箕 面 高 校	3
6	被 昇 天 高 校	5
7	宝 塚 高 校	2
8	小林聖心女子学院	3
	合 計	21

採点は Intonation・Pronunciation に50点  
Content・Composition に30点  
Bearing・Delivery に20点  
の配点で行ない結果は次のとおりでした。

順位	氏 名	学 校 名
優勝	井 口 優 子	梅 花 高 校
2 位	吉 永 裕 也	箕 面 高 校
3 位	三 宅 節 子	宝 塚 高 校
4 位	桂 千 景	被 昇 天 高 校
5 位	織 田 靖 子	小林聖心女子学院



入賞者、右から井口(優勝)、吉永(準優勝)、三宅(3位)、桂(4位)、織田(5位)



審査員の各先生方

参加者全員に参加賞として図書券と弁論の際の写真及び録音テープを贈りましたが大へん好評で学校によってはクラブ活動や英語の授業に活用されています。最後に大会に際しご支援ご協力を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。



優 勝 者

梅花高校2年

井 口 優 子

### 出場の動機とテーマ

ある日、私は学校帰りに豊中駅前でカンボジア難民のための募金運動をしている人を見かけた。私は、その人の前で立ち止まって自分のポケットから財布を出し、のぞいてみた。たった40円しかなかった。40円だけなんて少し恥ずかしい気もしたが、思い切って募金箱に入れた。すると「ありがとうございます」という快い声が戻ってきたので、先ほどの恥ずかしさは消え、何か大きな事をした感じがして自分が誇らしく思えた。それがきっかけとなってか、それ以来ちょくちょく、「カンボジア難民」という言葉がテレビや新聞で目につくようになった。ある時、某新聞に『戦火と飢えと』（小見出しとして『カンボジア国境はいま』）と題して数回にわたってカンボジア難民の現状が掲載された。また丁度その頃、豊中・サンマテオ姉妹都市協会主催の英語弁論大会に出ようと決めた。しかし中々、テーマが浮かばず、どうしようかと思っていた時、ふっと先日のカンボジア難民の新聞記事が頭に浮かび、すぐさま古新聞の中から捜してきて、その記事だけ切り抜いてよく読んでみた。今の私には全く想像できない境遇にある難民。私はどうにかして彼らを助けてあげたいと思った。でも私一人だけこう思っても結果的には、ちっぽけな同情に終わってしまうのかなあ、などと思いながら弁論大会の原稿を書き終えた。結びの中に私が新聞記事で読んで印象的な言葉“YOUR SYMPATHY CAN NOT HELP A REFUGEE, BUT IT IS A BEGINNING”（同情は難民を救えない。が、その

始まりになる)を書き入れた。題目は“難民について”。私は優勝した。でも心の中にポツカリと穴があいた様な気がした。私が優勝したからとて難民の飢えや病いがなくなるわけではない。弁論大会は終わったが、難民について深く、真剣に考えていかなければならないのは、これからではないかと思う。同情は難民を救えないかもしれないが、一人でも多くの人に真剣に考えてもらいたいと思う。否、考えねばならないのは人間である以上、当然のことかもしれない。

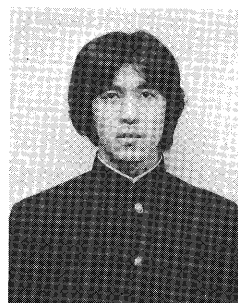
色々な面で難民よりずっと恵まれている私達。恵まれすぎているせいか、私達は何か大切なものを落としてしまっていないだろうか？また、忘れてはいないだろうか？

それは、飢えに苦しむ人や病める人が一人でも存在する限り、私達に問われるのでは？



熱弁の井口さん





準優勝者

箕面高校2年

吉永裕也

### ただ一人の男性として

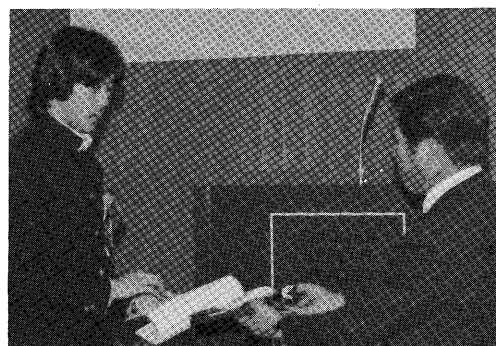
私がESSに入ってから1年4ヶ月になりますが、この大会が高校生活最後のものでした。といっても、スピーチコンテストに出たのは2回目です。(一度シナリオオーディングコンテストに出ました)最後の大会だったので入賞できて大変うれしく思います。

最近、高校のESS(特に公立)が衰退していると思います。特に男子の部員は少ないのではないかと思います。今大会でも男子が一人だったということには驚きました。これは大変嘆かわしいことでもあります。だから、他校のESSの皆さんにもっと頑張ってもらい、我校のESSもそのようにならないよう努力しなければなりませんと思います。

さて、今大会の感想ですが、まず思ったことは、この大会は、日本語で始まって日本語で終わったなと思いました。めずらしいことです。次に、先にも述べましたように、参加21名中男子がたった1名だけだったということです。最後に、今までに出た、そして見てきたコンテストと雰囲気が全然違って大変リラックスしてできたと思います。また、私個人としての反省としては、まず原稿が完成したのが12月の末、約1ヶ月間練習する期間がありましたが、いろいろなことを練習していると短いもので、完全に練習が終わっていないうちに本番になってしまいました。1ヶ月間あったので、暗記の面では心配なかったので、話すスピードも適当であったと自分では思っています。しかし文章全体のイントネーションがよく自分のものになって

いず、棒読みのようになっていたのではないかと思います。発音の面では、一生懸命頑張って直したり直してもらったりしたつもりですが、完全ではなかったと思います。たとえばyearがearになったなど。また発音の練習は自分の声をテープにとって、自分で聞いてみるというような方法もとってみました。テープの自分の声はどうしても英語を言っているような感じがしないので悩みました。だから当日他の人のスピーチを聞いて、どうしてあんなにきれいに発音できるのかなと思い、大変うらやましくなりました。

結果は、2位ということでしたが、今回も不完全なまま出場したということだけに悔いが残ります。ただ、前に出た大会よりは、相当ましになったと思うので、それだけは良かったと思います。



受賞の吉永君



### 素晴らしいサンマテオ市

豊中少年野球チーム訪問団  
チーフリーダー

桑村 三十三

国際童年の好運にも恵まれ、市内の児童及び引率者31名をもって野球を通じての親善交流が大成功裏に終わった事は、協会、行政、市民等の暖いご支援のお陰と感謝いたしております。

私は今回この意義ある交流は両市の親善をより密に、しかも将来の日本を背負って立つ子供達にとってたいへん有意義であったと確信いたします。



ボクラ親善使節だ

サンマテオ市では各家庭でホームステイをさせていただき、両国民の生活の違いをはっきりと表に出し、その中から子供達は何かをつかみとる事が出来たと思います。言葉・生活様式すべての違い、又物の考え方の相違を乗り越えて、子供は子供同志、大人は大人同志、特に子供同志は古くからの友達であった様に本当に仲良くなり、日本の子供は日本の遊びを教え、又アメ

リカの子供は日本の子供に教えたわむれていた姿はほほえましく、言葉では云い表わせない幸福感に満たされたものです。地理的には、豊中市とサンマテオ市とは空港から近くよく似た位置にあります。町並みは緑にあふれ、市内は整然としかも静かな郊外のベッドタウンであり、さすがビッグアメリカンだどつくづく感心させられました。

サンマテオ市の市長をはじめ、市の関係者、ホームステイの家庭のみなさんの心からのサービスはなかなか私達がまねのできない何か深みのあるものでした。



日本庭園での歓談

私達はサンマテオ市の皆さんが来られたときには、果してあれだけの真のサービスが出来るか疑問ですが、しかし、心と心の暖かいふれあいをもって接する様努力したいと考えております。

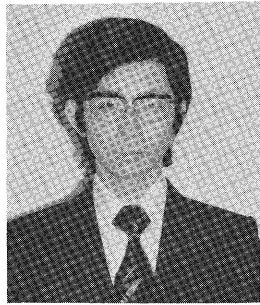
子供達のこうした友好親善の機会を今後市内のより多くの人々に経験させてあげたいものです。なぜならば、将来の日本人は国際人にとどまらず、世界人として地球上で人類のために少しでも役立つ人間にならなければならないと考えるからです。

今後共両市の文化、スポーツ、教育すべての面でより一層交流が盛んになることを心から望むものであります。





## ベイサイドの子供達と



嶋 和 彦

昨年10月、姉妹都市サンマテオを訪れ、市内の一立中学校ベイサイド・ミドル・スクール (Bayside Middle School, R.Damelio 校長、生徒 700 名) にて、4 カ月間、教育実習生としてのボランティア生活を送ることができました。爽やかな気候と緑溢れる街で、素晴らしい子供達と共に過ごした日々は本当に楽しく又充実したものでありました。

私は将来中学校の英語教師を志しておりますが、何とかして若いうちに外国の子供、学校を見てきたい、それも単なる見学ではなく実際に学校の中、子供の中に入って活動してみたいと常々考えておりました。今回その夢が実現し、日本の教育、子供、大人、社会等を考えいく上での非常に新鮮な視野を得ることができたのですが、考えてみれば一国の文化、将来を表わすとも言える義務教育現場の中に、外国人たる私が入り得たということ自体が実は極めて不思議なことなのであり、この貴重な機会を提供して下さった Damelio 校長始めベイサイドの先生方、下村市長、ベーカー市長始め豊中、サンマテオ両市の関係諸氏に対し、深く感謝の意を表するものであります。又、ベイサイド中の強い御希望により、私の母校七中とベイサイド中との間に新たな友情が生まれたことに対しても、無上の喜びを感じるものであります。

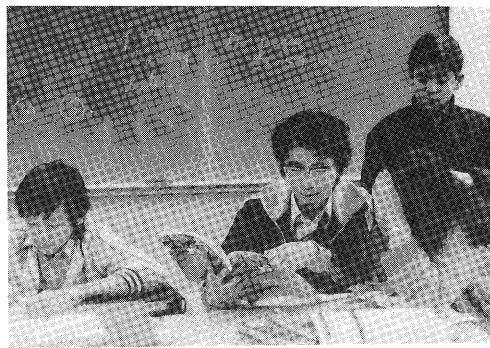
さて、ベイサイドの生活を極簡単に言うと—8:30から3:00まで午前4時限午後3時限。昼休み以外休憩はなく、放課後の活動もまずなし。終業後は教師も生徒もさっさと帰宅。土、

日と休み。一クラス30名以下。ゆとりという点では羨ましい限りです。私は6、7年生の様々なクラスで活動しましたが、中心はE. S. L. (English as a Second Language) クラスと言って、移民(中南米、東南アジア、トンガが多い)の子弟のための英語のクラスです。在籍約60名。数学や社会のお手伝いできれば…と想像していたのですが、英語と聞いてびっくり。度胸を据えて堂々とふるまったのがよかったです。みんなとても慕ってくれて嬉しく思っています。

ところで、日本の教育との大きな違いはやはり個人主義と自由でしょう。教師は大筋を示すのみで、各自が自分のペース、方法で学習します。その意味において個人は自由であり、自由であらねばならないわけで、日本の一斉平等授業の話をするとも誰もが不思議がられました。服装等私生活に関しても同様で、価値は別として、どうも日本の学校は仕事が多すぎるようです。

セントラル・パークで仲良くなった子供達、ベイサイドの先生とのサン・フランシスコの休日、多くの市民、特に日系一、二世の方の心暖まるおもてなし、毎日散歩した街並みと静かなクリスマス。私は、ゆとりというものを発見したような気がしてなりません。

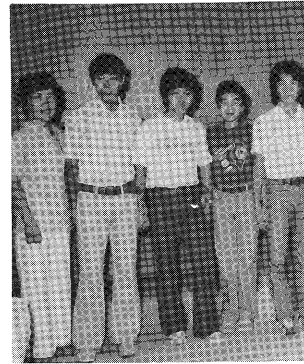
何年か先、かつてのベイサイドの子供達が日本を、豊中を訪れてくれることを祈ります。その子供達が最後に言ってくれた言葉を忘れることなく—Thank you, Mr. Shima. Be sure to be back to Bayside. Good-bye.



教室で子供達と

## その他交流

◎ 5月23日～26日 シンガポールへ訪問  
豊中南ライオンズクラブが、シンガポールのノース・ライオンズクラブへ表敬訪問。(参加30名)



◀ 7月21日～26日  
ラボ国際交流  
豊中のラボメンバーが、アメリカの各州へ国際交流として訪問。(参加13名)

▼ 7月28日 米国ラボメンバーの表敬訪問  
ラボ国際交流活動として、アメリカの4Hクラブの高校生ら4名が、豊中市長を表敬訪問。豊中市内の家庭で生活を通して日本の文化や伝統を学んだ。



▼ 8月21日キングス・キッズの表敬訪問  
ハワイのインターナショナル・クリスチャンスクールの児童(13名)らが豊中市長を表敬訪問。



## その他行事

- ① 5月25日  
昭和53年度の会計監査
- ② 6月20日  
総会並びに役員会
- ③ 2月9日  
第8回高校英語弁論大会



## 編集後記

昭和38年に、サ・市と姉妹都市縁組が始まって今年で17年を経過いたしました。その間いろいろと交流事業を行なってきましたが、特に今年はサンマテオ市長の公式来豊をはじめ、親善訪問団によるサ・市訪問、少年野球チーム、家庭婦人グループの訪問等、たいへん人的交流の多かった1年でした。さらに2月には、第8回高校英語弁論大会も大へん盛大に行う事ができたのもひとえに会員の皆様方のお陰と事務局一同、感謝に堪えないところでございます。こういった活発な交流は今後一層両市との絆を深めてくれるものと確信いたします。どうか会員の皆様方には今後ともより一層のご指導とご支援を賜りたいと考えます。